

表② 第五次千葉県障害者計画 数値目標 達成状況管理表

(評価)  
 A . . . . . 目標値の100%以上の達成率  
 B . . . . . 目標値の80%以上100%未満の達成率  
 C . . . . . 目標値の60%以上80%未満の達成率  
 D . . . . . 目標値の30%以上60%未満の達成率  
 E . . . . . 目標値の30%未満の達成率  
 - (その他) . . . . . 調査中及び達成率による評価ができないもの等

施策番号	主要施策	基本施策	数値目標	単位	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (目標)	29年度 (目標)	28年度 (実績)	評価	成果の状況等 (28年度コメント)	資料2
2-(1)	2 精神障害のある人の地域生活への移行の推進	(1)精神障害のある人の地域生活への移行支援	2-1	精神科病院に入院した患者の入院後3か月経過時点の退院率(%)	%	56.9 (H24.6)	60.1 (H25.6)	56.5 (H26.6)	61	64	59.4 (H27.6)	B	・引き続き、関係機関との連携により早期退院を目指す。
2-(1)		(1)精神障害のある人の地域生活への移行支援	2-2	精神科病院に入院した患者の入院後1年時点の退院率(%)	%	87.3 (H24.6)	87.4 (H25.6)	85.1 (H26.6)	89	91	89.3 (H27.6)	A	・今後も引き続き、関係機関との連携により、目標達成に取り組む。
2-(1)		(1)精神障害のある人の地域生活への移行支援	2-3	精神科病院の長期在院者(1年以上在院者)の数	人	7,857 (H24.6)	7,767 (H25.6)	7,010 (H26.6)	6,802	6,442	6,197 (H27.6)	B	・長期入院者の地域移行支援については、今後も取り組む。
2-(1)		(1)精神障害のある人の地域生活への移行支援	2-4	遠隔地退院支援者数の実数	人	なし	10	3	15	23	1	E	・事業の認知度が悪く、手続きに時間を要するため、目標より低い実勢となった。
2-(1)		(1)精神障害のある人の地域生活への移行支援	2-5	地域移行・定着協力病院の指定数	箇所	なし	0	0	18	26	11	C	・平成27年度末から認定制度を実施しており、制度の周知を図る必要がある。
2-(2)		(2)障害のある人自身が自らの経験を基に相談支援等を行うピアサポートの推進	2-6	地域移行・地域生活支援事業の実ピアサポーター活動箇所数(見込箇所数)	箇所	なし	6	7	7	8	5	C	・今後、活動内容や、圏域毎の実施内容について等情報交換が必要。
2-(3)		(3)精神科救急医療体制の充実	2-7	精神科救急基幹病院数	箇所	9	9	9	11	11	9	B	・精神科救急医療圏の見直しを行い、併せて基幹病院の充実を図りました。
2-(3)		(3)精神科救急医療体制の充実	2-8	精神科救急身体合併症に対応できる施設数	箇所	4	4	4	9	9	5	-	・平成28年度に精神科救急医療システムの実施要綱の中で身体合併症に対応できる医療機関を「対応協力病院」として整理を行いました。
7-(2)	7 障害のある人一人ひとりに着目した支援の充実	(2)地域の支援施設等のみでは支援が困難な障害に対する支援の推進	7-2	高次脳支援拠点機関数	箇所	3	3	3	3	3	3	A	・県内3箇所(中央、北西部、南部)に支援拠点機関を設置。
7-(2)		(2)地域の支援施設等のみでは支援が困難な障害に対する支援の推進	7-3	高次脳機能障害相談件数	件	9,244	16,762	19,797	9,300	9,300	12,695	A	・上記3機関で、相談に対応。他に、研修や啓発等の活動もしており、件数が増加している。
7-(4)		(4)ひきこもりに対するアウトリーチ型支援の推進	7-5	ひきこもりサポーター養成者数	人	なし	33	40	75	100	7	E	・平成28年度は、養成研修は実施せず。フォローアップ研修のみ行った。今後は現場で活動できる支援体制づくりが課題。
7-(4)		(4)ひきこもりに対するアウトリーチ型支援の推進	7-6	ひきこもり地域支援センターの相談見込み件数	件	483	904	1,187	900	1,000	1,011	A	・毎月100件前後の相談を受理。本人からが80%。ひきこもり本人は男性が80%。20代が55%。
7-(4)		(4)ひきこもりに対するアウトリーチ型支援の推進	7-7	ライトハウスちばの相談件数(ひきこもりに関するものに限る。)	件	297	517	220	700	800	177	E	・件数減少の理由:次につなげるための実質的な相談対応を主とし、傾聴のみの相談を整理したため。結果、新規相談は増加した。
7-(4)		(4)ひきこもりに対するアウトリーチ型支援の推進	7-8	アウトリーチ型の訪問件数	件	15	19	10	100	200	12	E	・ひきこもりの特性から、訪問日程調整がすすまなかったことが要因と考えられる。
8-(6)	8 その他各視点から取り組むべき事項	(6)暮らしの安全・安心に関する支援	8-16	災害派遣精神医療チーム(DPAT)体制整備運営(検討)委員会の開催見込み数	回	なし	3	2	1	1	0	E	・平成28年度は熊本地震への派遣もあり、実施できなかった。今後は要綱改正含め、検討中である。